

柴田農林高等学校川崎校

か かわりあいを大切にし、良い人間関係を築く川校生



4月

対面式

学校内での良好な人間関係を構築するとともに高校生活への適応を図る。

集団活動は、お互いにルールを守ることで成り立っていることを理解させ、協調性を養い集団の一員であることを自覚させる。



レクリエーション大会

7月

わ わかるまで粘り強く努力し、困難に立ち向かう川校生



6月、2月

個別指導

それぞれの進路について見通しを持って、具体的な事から学習できるように支援する。

国語・数学・英語において習熟度別授業を展開している。また、学び直しや補習、大学進学を目指す生徒への個別指導など、各自の実力に合わせてたきめ細かな指導を行っている。

全月



さ 先々まで見通し、自らの生き方を考え行動する川校生



7月

卒業生と語る会

社会人となった卒業生の取組やアドバイスを在校生に聞かせることによって、在校生が進路を選択し、希望する進路を実現させるための一助とする。



12月

校外学習

見聞を広めるとともに社会のマナーについて学習し、またクラスの親睦を図る。



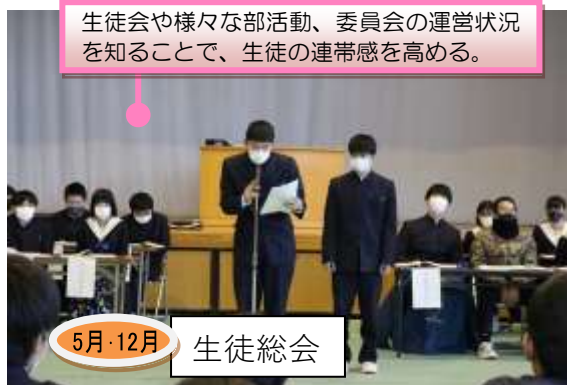
き 郷土を大切にし、自らの役割をすすんで果たす川校生



スノーバスターズ

冬期

町内のお年寄りの自宅の雪おろしを行うことで、町に貢献する。



5月・12月

生徒総会

生徒会や様々な部活動、委員会の運営状況を知ることで、生徒の連帯感を高める。

【題材名（活動名）】

植樹ボランティア

【学年】 1 学年

【ねらい】

- ・東日本大震災の被災県である宮城県の高校生として、これからの復興や発展を担う意識を醸成する。
- ・宮城県本来の樹木を活用した復興を行い、自然を慈しむ心を育てる。
- ・様々な方とともに活動を行い、社会の一員として役割をはたすことを体験する。

【志教育の視点】

宮城県の高校生として土地本来の樹木を活用した森の防潮堤を築く活動を通し、被災県の高校としての役割を自覚し、その責任をはたす。さらに、様々な人とのかかわりを通して、これからの復興や発展を担う意識を育てる。

【活動の流れ】

6月11日 雨の中、鎮守の森のプロジェクトの方から説明を受けた後、小学3～4年生の子どもたちとペアをつくって200本の苗を植えました。



11月6日 小学1～2年生の子どもたちと一緒にクイズ形式の講義を受けた後、青根演習林の中で子どもたちとどんぐり拾いをしました。子どもたちと別れた後、木の見分け方など森の植生についての研修も行いました。



【志を高める手だて】

被災地の視察や植樹など体験的な活動を取り入れ、自分たちの活動が復興につながっているという意識を高めるようにしている。多くのボランティアの方々との活動を通して、様々な視点に触れ、進路選択や興味においても幅広い考えを持てるようにしている。